

第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 改訂の概要について

令和3年（2021年）7月2日
佐久市

第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

改訂の趣旨

- 第1期総合戦略による取組で得られた「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という悪循環の確実な弱まりを受け、この悪循環を反転させ、好循環に結び付けるための具体策に切れ目なく着手していくことが必要であることから、令和2年（2020年）3月に、「第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定（計画期間：令和2年度～令和6年度）
- その後、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、国は、令和2年12月21日、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略を改訂し、新しい地方創生の実現に向けた今後の政策を打ち出す。
- 当市においても、まち・ひと・しごと創生法第10条に基づき、改訂された国の総合戦略改訂を勘案し、また、新型コロナウイルス感染症による影響及び市の政策転換を踏まえ、第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略を改訂する。

「第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定（令和2年3月）

- ・ 第2期では、中長期的なビジョンを持った上でこの時期何をすべきかを明確化し、特化・鋭角化
- ・ 「しごと」を作り、「しごと」が「ひと」を呼び、「まち」が活性化する「しごと」起点という性質に加え、本市の特性を踏まえ、「まち」起点、「ひと」起点による複合的なサイクルといった多角的アプローチにより好循環を確立

新型コロナウイルス感染症の発生
感染症を受けた国民の意識・行動変容

国

「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を改訂（令和2年12月）

- ・ 新型コロナウイルス感染症の急激な拡大の影響を踏まえ、当面の地方創生の進め方を提示

新型コロナウイルス感染症の感染拡大
市の政策転換

「第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を改訂（令和3年7月）

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響及び市の政策転換を踏まえ、新たな方向性や施策を追加

第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要（令和3年（2021年）7月改訂）

基本的な考え方

第1期総合戦略による取組で得られた「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という悪循環の確実な弱まりを受け、この悪循環を反転させ、好循環に結び付けるための具体策に切れ目なく着手していくことが必要であることから、令和2年（2020年）3月に、「第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定（計画期間：令和2年度～令和6年度）

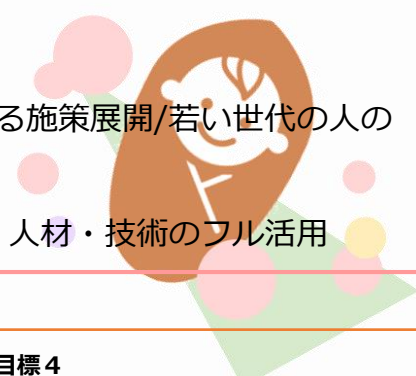
○ 「基本目標」、「基本的方針」の基本方針

- 第1期総合戦略で設定した4つの基本目標は維持
- 第1期のような網羅的なものではなく、中長期的なビジョンを持った上でこの時期何をすべきかを明確化し、特化・鋭角化
- 「しごと」を作り、「しごと」が「ひと」を呼び、「まち」が活性化する「しごと」起点という性質に加え、本市の特性を踏まえ、「まち」起点、「ひと」起点による複合的なサイクルといった多角的アプローチにより好循環を確立

○ 「具体的な施策」の基本方針

あらゆる施策において立脚すべき考え方と、時代の流れを踏まえて横断的に適用すべき手法を新たに設定（立脚すべき考え方）

- 卓越性を磨き、生かす施策展開/地域ごとの特徴を磨き上げ、個性化する施策展開/市民が誇りを持てる施策展開/若い世代の人の流れを具体化する施策展開/長期ビジョンを明確化した施策展開/人口減少を意識した施策展開（横断的に適用すべき手法）
- ターゲットの明確化とそこまで届く情報発信/未来技術の活用/国外の活力の活用/民間の発想・資金・人材・技術のフル活用



基本目標

基本目標1
選ばれる暮らしやすさを更に高める、佐久市における「まち」の創生

- 数値目標
「佐久市は住みやすい」と回答する人の割合
基準値：78.0%（R1（2019））
➤ 目標値：80.0%（R6（2024））

基本目標2
佐久市を知って、来て、住みたくなる、佐久市における「ひと」の創生

- 数値目標
人口の社会動態の増加数（計画期間の累計）
目標値：1,500人（R6（2024））

基本目標3
結婚・出産に先んじて子育てのトップラナーを目指す、佐久市における「しごと」の創生

- 数値目標
合計特殊出生率
基準値：1.59（H30（2018））
➤ 目標値：1.77（R6（2024））

基本目標4
多様な職場、多様な働き方から始める、佐久市における「しごと」の創生

- 数値目標
市内事業所の従業員数
基準値：40,237人（H28（2016））
➤ 目標値：41,800人（R6（2024））

「まち」・「ひと」・「しごと」の創生で目指すべき将来

- 時代に適応した地域が作られ、ネットワークで結ばれ、住民が生きがい豊かに安心して暮らし続けている。

- 本市の卓越した魅力が育まれ、その魅力に惹かれて、若い人を中心に地域内外の多くの人が集っている。

- 若い世代の結婚、出産、子育ての希望がかない、安心して子どもを生み、育てている。

- 魅力的で多様性のある仕事生まれ育ち、住民が安心して働き、経済的な安定を得ている。

【目指すべき将来】

「若い世代の希望をかなえ、選ばれるまち」を実現し、将来に渡って活力ある地域であり続ける。

【目指す人口】

「佐久市人口ビジョン（令和元年度改訂版）」に掲げる人口の将来展望の実現
令和42年の目標人口＝約86,000人

第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂の考え方

改訂の内容

令和2年12月に改訂された、国の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案した上で、以下の改訂を行う。

- 新型コロナウイルス感染症による影響を反映
- 市の政策転換、令和3年度一般会計補正予算（第4号）を反映
- 数値等の時点修正

改正による第2期総合戦略で目指す方向性

○ 基本目標1「選ばれる暮らしやすさを更に高める、佐久市における『まち』の創生」

新型コロナウイルス感染症を契機に、三密（密閉・密集・密接）の回避、職住近接やゆとりあるオープンスペースのニーズの高まりなど、マクロの都市機能の集積に加え、新しい「まち」づくりの在り方が議論されている。本市の卓越性からは、「まち」自体にその素地が整っているといえ、こうした議論の推移に注視しつつ、**ポストコロナにおいても選ばれる「まち」を目指し、新たな「まち」の魅力を発見・創出**していく。

（主な新施策）➤ 新たな公共交通体系の構築、避難所における人流データの活用

○ 基本目標2「佐久市を知って、来て、住みたくなる、佐久市における『ひと』の創生」

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、東京圏からの転出超過となるなど、国民の意識や行動にも変容がみられ、地方移住への関心が高まっている。これらを契機として、人口の社会増が続いている本市においても、**他に一步も譲ることなく、本市の卓越性を生かした移住施策を推進**する。

（主な新施策）➤ キャンプ場から広がる持続可能な観光地域づくり、
リモート市役所、地方移住ターゲット層を意識した施策

○ 基本目標3「結婚・出産に先んじて子育てのトッランナーを目指す、佐久市における『ひと』の創生」

新型コロナウイルス感染症は、本市においても婚姻件数、出生率・出生数の減少に影響を及ぼしているおそれがあることから、ポストコロナの新しい日常においても、安心して結婚・出産・子育てができるよう、その**不安を払しょくする「真のトッランナー」として、新しい日常におけるライフステージごとの支援を総合的に推進**する。

（主な新施策）➤ 産後ケア（宿泊型）、子育て拠点施設の整備

○ 基本目標4「多様な職場、多様な働き方から始める、佐久市における「しごと」の創生」

新型コロナウイルス感染症の影響により、都市圏を中心にテレワーク実施企業が急増しており、組織内外とのやり取りにおいても対面ではなくウェブ会議で行うケースも増えている。今般の感染症を受けた新しい働き方の広がりは、東京圏の人口集中を緩和し、地方移住・就業を拡大する可能性が大いにあることから、本市も**新たな働き方に対応した環境を整備**する。

（主な新施策）➤ 魅力あるしごとUIJ促進事業、SAKUテレ・インターン、女性活躍の推進

第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略 <体系図>

【目指すべき将来】「若い世代の希望をかなえ、選ばれるまち」となり、将来に渡って活力ある地域であり続ける！

「まち」の創生

時代に適応した地域をつくる

「ひと」の創生

魅力を育み、人が集う

人口減少を和らげる

結婚・出産・子育ての希望をかなえる

「しごと」の創生

魅力ある仕事と経済的安定を生む

【第2期戦略で目指す方向】

基本目標

具体的な施策

1 選ばれる暮らしやすさを更に高める、
佐久市における「まち」の創生

(数値目標) 「佐久市は住みやすい」と回答する人の割合

- (1) 民間との協働による機能集約型まちづくりの推進
- (2) 新たな技術でつなぐ地域間ネットワークの構築

2 佐久市を知って、来て、住みたくなる、
佐久市における「ひと」の創生

(数値目標) 人口の社会動態の増加数

- (1) 知ったら行きたくなる・住み続けたくなる「シル」の推進
- (2) 来たらもっと知りたくなる・居たくなる「クル」の推進
- (3) 居たら住みたくなる・住み続けたくなる「スム」の推進

3 結婚・出産に先んじて子育てのトップランナーを目指す、
佐久市における「ひと」の創生

(数値目標) 合計特殊出生率

- (1) 子育て世代が実感する子育てのトップランナーの実現
- (2) 人が心惹かれる子育ての先進地化の浸透

4 多様な職場、多様な働き方から始める、
佐久市における「しごと」の創生

(数値目標) 市内事業所の従業者数

- (1) 新たな働き方「佐久市型スマートワーク」の創出
- (2) 世界とつながる「佐久市型グローバルワーク」の推進
- (3) 官民連携による地域産業への新たな付加価値の創出

施策立案で「立脚すべき考え方」と
「横断的に適用する手法」

【立脚すべき考え方】

卓越性を磨き、生かす

地域ごとの特徴を磨き、個性化する

市民が誇りを持てる

若い世代の人の流れを具現化する

長期ビジョンを明確化する

人口減少を意識する

【横断的に適用する手法】

ターゲットの明確化と情報発信

未来技術の活用

国外の活力の活用

民間活力の活用